

第57号

発行編集
須坂市農業委員会
〒382-8511
須坂市大字須坂1528-1

すざか 農業委員会だより



会長の中島敬治さん

豊作祈願と

天地鎮めの舞を奉納

災害から立ちあがる人々

去る4月27日相之島の千曲川河川敷において、水神様への豊作祈願と、天地鎮めの神楽の舞が奉納されました。

3年前の7月19日、この肥沃な果樹の主産地が、大洪水に見舞われたところです。

この神楽は、永い間途絶えていたものが8年程前に中島敬治さん、中島秀樹さんの働きかけと先輩の指導により復活したものです。

近年は育成会も加わり、灯笼なども新調しました。毎年、秋の文化祭では、この舞が披露されたり、町内を巡行するなど地域に定着しています。

会員は15名で、中堅の土屋嘉忠さんは、神楽を通じて地域のコミュニケーションも深まり、伝統文化を伝えていくことへの期待を膨らませています。

また、去年の区長さんをはじめ関係する役員の熱意で、国のふるさと文化事業「地域伝統文化伝承事業」の認定を受けることができました。

この和やかな河川敷の風景

には誰もが強い感動を覚えますが、それとは別に歴史の中で生き抜いてきた、農民の苦闘と、汗にまみれた土の美しさが、災害に負けない力強さの感動を伝えてくれています。そして、この風景が永遠でありますように。

市村憲章農業委員記

- 豊作祈願と天地鎮めの舞を奉納
- 三木市長に建議書を提出
- 部会報告
- 遊休農地解消モデル園の取組み
- 家族経営協定調印式
- 須高地区農業委員会協議会開催
- 農業者年金に加入を
- 生き生き農家



魅力ある農業実現に向け

三木市長に建議書提出

農業が魅力とや
がいのあるものとな
るよう、地産地消の
推進への取り組み、
産地形成と地域ブラ
ンド化による付加価
値の高い農業の推進
など、安定的な農業
経営が必要とされて
います。

また、農業者自身
が地域農業を支えあ
う仕組みづくりの実
現や、認定農業者の
拡大に向けた取り組
みも重要であります。

農業委員会では農業振興対
策部会、農地対策部会、農業
後継者対策部会の3部会を設
置し、市民農業大学校や10
アール下限面積の緩和による
新規就農者の拡大、利用権の
設定や遊休荒廃農地の解消、
結婚相談所の充実や家族経営
協定への支援、そして農業委
員会だよりによる啓発情報の
提供に取組み、地域農業発展
のため努力してきました。

農業者の代表として、農業
の振興、農業後継者特に若者、
女性農業者が「夢」を持って



取り組める魅力ある農業を実
現するため、当面する課題に
ついて建議書を提出しました。

I 農業振興について

◎ブランド造りの取り組みと
して、基幹の果樹に伝統野
菜、花、茸、そば等の穀物を
加え、須坂にしかない総合
ブランド、奥信濃農産物を
選定、認定する運動を推進
し、野菜及び花の生産振興
◎地産地消、フードマイレ
ジ（農産物の輸送になるべ
くエネルギーを使わない）

の考えから、中山間地対策
としての地産地消基本計画
に基づき、麦・大豆・ソバ
の生産に対し、作付け奨励
金の創設や、播種及び収穫
用農機具のレンタル事業を
創設

◎市民農業大学校の卒業生に
よる生産の拡大と農産物直
売所の確保。須坂市動物園、
米子大瀑布などの観光資源
とリンクした直売所等の設
置への助成

◎農産物の加工産業を育成し、
付加価値を高め、グリーン
ツーリズムの導入による観
光の振興、地域内の消費者
との交流、各種イベント事
業の振興による販売促進

◎農業サポートセンターの充
実、ワーキングホリデー事
業（県事業）の取り入れによ
り、須坂の援農組織の拡充
及び須坂の応援団の増大

◎陸砂利の採取は遊休荒廃農
地拡大への助長となってい
る。良い自然、良い環境、良
い土壌で生産されてこそ本
当の産地ブランドとなるた
め、農地における陸砂利採
取の制限化に向けて、農業
振興地域整備計画への反映
◎食の安全を確保する農業を
推進し、食料自給率を向上
させるとともに、農家の生

産性の向上と農家所得の増大
◎果樹・野菜等自然災害の影
響が大きい農作物への共済
制度の充実

II 農用地の有効活用について

◎経営基盤強化促進法に基づ
く市町村構想の弾力的な取
り組みによる、農地流動化
の促進に向けて多様な施策
の展開

◎農業開発公社・JAの機能
との連携を密接にして、技
術指導を含めた担い手確保
のほか、果樹産業の特性を
生かし市内外、または県的
な範囲での市民農園、オー
ナー農園の拡大

◎生きがいづくり・仲間づく
りなどの視点から、非農家
の参入を促進し、技術指導
をはじめ、必要な助成を行
う

◎農地の遊休荒廃化が進行し
ていく情勢においては、行
政からの助成が重要である
ため、農地復旧・技術指導・
農地バックアップ資金の選
択的拡大活用を有効にし、
高齢者や女性、非農家の農
業参入を促進して、彩りの
ある農村の形成

◎遊休荒廃農地のうち、耕作
が困難な原野化した状態の
農地については、林地化へ
区分

◎集団化された農地の中で未
整備地区があり、農業経営
の支障となっているため土
地改良区と連携を図り、早
急な整備・改良を図る。ま
た、水路の漏水、路肩が崩
れた狭い農道があり、営農
に不便をきたしているため
早期に改修事業を推進

III 後継者対策について

◎農業者の高齢化が進み、突
然の耕作断念のケースが見
られるため、農家の子弟に
限らず、定年帰農を含めた
新規就農者の育成、認定農
業者の拡大の取り組みの推
進。また、新規就農促進に
向けて、市、JA、普及セ
ンター等の連携をより一層
推進するなかで、実効のあ
る各種新規就農支援事業の
活用

◎家族経営協定の推進と意欲
ある女性認定農業者の育成
◎農作業体験を通じ児童・生
徒が農業、農村への興味や
理解を深めるなかで、昔か
らある郷土食、また食文化
を後世に伝えるため、農業
小学校・市民農業大学校の
充実

◎女性農業者の起業活動支援
のため、地域農産物を活用
した加工・直売所の開設や

農家レストランの設立
 ◎結婚相談活動（ときめきカードの取り組み）への支援と、「都市と農村ふれあい交流事業」の設立

IV 鳥獣害対策について

◎有害鳥獣対策の促進のため、柵への助成、捕獲頭数の確保・拡大及び猟友会等への助成充実
 ◎鳥獣の生息環境保全に対し、実のなる広葉樹林の造成

V 農業委員会の体制強化について

農地の番人として、農地法等の法令業務のほか、関係機関との連携、地域農業者支援活動等「農業委員会の重要性」は増しており、一層の強化と充実を図る必要がある。
 ◎女性農業委員の登用についての支援
 ◎農業委員研修、調査研究活動への支援

農地が荒廃するのは、採算が取れないからである。それは国の責任であって、農家の責任ではない。それでも守っていききたい、まだ見ぬ孫子のために、我々が生きる地域のために・・・



荒廃地解消と農業活性化のために

〓任期を終えるにあたり〓

須坂市農業委員長 一色定吉

今、須坂市内の農地に遊休荒廃農地が目立つようになって来ました。須坂市農業委員会の調査では、その面積が197ヘクタールとなっております。遊休荒廃農地が発生すると、日常生活の廃棄物などの不法投棄や病虫害、鳥獣害の発生など環境への悪化につながり、農地の持つ多面的な機能が失われます。そして、なにより食料の安定供給の観点から大きな懸念材料となります。

部会報告

挑戦と体験で園芸を楽しむ

農業振興対策部会長 永田 栄一

当農業委員会では、このような見地から、市内6ブロックにおいて「遊休荒廃農地解消モデル園」を設置しました。また、市民農業大学への参画や地域の人々との黒豆栽培、農協青年部との菜の花やジャソボカボチャの栽培、女性農業グループによる大豆栽培から豆腐加工までの活動、景観作物の栽培、林野化した農地の復旧などに取り組み、21名の農業委員が地域の人達とともに汗を流してきました。

政府は昨年、「5年程度を目途に農業上重要な地域を中心に耕作放棄地ゼロを目指す」との方針を打ち出しました。国民共有の財産である農地を

さんにできるだけ、農業や園芸に親しんで頂けるよう、市民農業大学の開校をはじめ、農地利用も条件緩和しております。体を動かし、大地に挑戦し、命を育てることは自らを育てることにのみならず。大地は学校であり、病院であり、遊びの場でも有ります。共々「未知への挑戦」を楽しみましょう。

農地パトロールの成果を遊休農地解消に

農地対策部会長 竹内 昇

耕作を放棄された農地が年々、増加しています。その対策として、農業委員会では、毎年、農地パトロールを実施し、農地の幹旋や貸借等を進め、耕作の継続に努めてきました。その結果、過去3年間に159件、約26ヘクタールの利用権設定を実現してきました。

また、市内6ブロックにおいて「遊休農地解消モデル事業」に取り組み、地域の皆様にも参画していただき、黒豆やソバの栽培が60アール程に達しました。一方、農業委員が地区ごとに力を合せて、ヒマワリ・コスモスなどの作付けを行い、さらに、小学校の生徒にも参加してもらいカボチャの栽培に取り組みしました。

雑木林のようになった畑には大型機械を持ち寄り、農地に再生させるなど、遊休荒廃農地解消に汗を流してきました。

都市と農村ふれあい交流事業の設立に向けて

農業後継者対策部会長 西澤えみ子

当部会では、農業従事者の高齢化や、担い手不足が深刻化する中、農業に魅力を感じる若者や女性農業者が、夢を持って生き生きと農業に取り組めるような情報提供や支援活動を行ってきました。

特に農業後継者の配偶者問題は深刻に受け止め、農業後継者結婚相談推進大会への参加や、JA松本ハイランド青年部が企画する、都市と農村ふれあい交流事業「みどりの風プロジェクト」活動や、結婚相談所の研修視察など参考にするなかで、結婚相談申込書「ときめきカード」を作成しました。

また、家族経営協定調印式に向け学習会を開き、協定者の推進を行ってきました。今後、結婚相談活動（ときめきカードの取り組み）への支援と、「都市と農村ふれあい交流事業」の設立に向けて活動をしていきたいと思います。

おはぎもプリンも美味しかったよ

遊休農地解消モデル園での取り組み

日野ブロック長 関 谷 剛

日野ブロックでは、モデル園で18年度には地元のJA青年部と協力し、20アールの遊休農地に、ジャンボカボチャと、野沢菜等を栽培し、翌春には地元の保育園児や、小学生の児童が畑で菜の花摘みを楽しみました。

これがかっかけて、19年度は小学校の近くの遊休農地で2学年の児童60名と、5月からジャンボカボチャやハロ



大豆の収穫

ウィーンカボチャ、コスモスや大豆の栽培をしました。大豆の収穫では、児童がシートの中で大豆をたたいたり、唐箕(とうみ)を使って選別し、初めての体験をしました。思いのほかたくさん取れた大豆は、1月の参観日に保護者と一緒に手作りの豆乳プリンを作って食べたり、節分には1年生と豆まきに使うことができました。3月5日には、粉にした大豆で、きなこのおはぎを作って食べました。美味しくうに食べる児童の笑顔を見ると子どもたちはそれぞれ自分たちが作ったプリンやおはぎの美味しさと、自分たちで農作物や料理を作ることができたこととっています。

保護者の皆様や担任の先生方にご理解いただき、一年間子どもたちと楽しい経験をさせていたいただいたことに改めて感謝いたします。



試 食 会

あいがとう
ございました

日野小学校2年松組

なの花のおいしいのをさがしてくれて、ありがとうございます。まめをはたきをおしえてくれてありがとうございます。そばをまいて日野小をうつつてかくことをおしえてくれてありがとうございます。ジャンボカボチャやだいのまき方をおしえてくれてありがとうございます。コスモスのたねのまき方で、あんまりたねをくつつけすぎないようにとかいろいろおしえてくれてありがとうございます。はたけをかしてくれて、2年生がいけないときに、みずをくれてありがとうございます。いろいろあった



お礼の手紙

けど、いろいろやってくれてありがとうございます。

みなより

なの花のいいところをおしえてもらって家でたべたらおいしかった。あとだいのゴミをとるきかいで2回ぐらいまわせたのが楽しかった。だいのまめをとるやつも楽しかった。コスモスもそでたら大きくなってうれしかった。ありがとうございます。

りょう太より

たんぼをかしてくれたり、ジャンボカボチャや、ダイズやコスモスやハロウィンカボチャを教えてくれてありがとうございます。わたしは、ジャンボカボチャとか、ハロウィンカボチャが、大きくなるのが、楽しかったです。

あと、わたしたちがいけないとき、水をくれてありがとうございます。

すずかより

農業委員会活動記録

(平成19年4月～平成20年3月)

4月9日	10日	農業委員会研修視察
ふれあい楽農クラブ総会	須高地区女性農業委員研修会	農業サポーターセンター運営委員会総会
24日	21日	4月定例会・協議会
25日	27日	農業委員会だより第55号発行
5月1日	11日	農地対策部会研修視察
12日	17日	市民農業大学校開校式・野菜学部
19日	24日	19市農業委員会協議会総会
30日	31日	JA須高第19回通常総代会
6月1日	4日	5月定例会・協議会
6日	9日	須高地区農業委員会協議会役員会
13日	20日	県女性農業委員会総会
23日	29日	農業者年金協議会役員会・総会
7月13日	20日	市民農業大学校野菜学部開始
19日	26日	県農地情報センター運営委員会
26日	31日	故佐藤好尾委員告別式
8月2日	9日	5月定例会・協議会
10日	17日	市水田農業推進協議会
24日	31日	県農業委員会事務局研究会総会
31日	7月	部会長・ブロック長合同会議
8月31日	7月	農業委員会臨時協議会・7月定例会協議会
9月11日	18日	JA須高農政対策協議会
21日	28日	農業振興策定会議総会
29日	31日	須高地区女性農業委員研修会
31日	10月	農業振興対策部会研修視察
10月5日	12日	長野地域農村女性のつどい
	19日	県農業会議定期総会
	26日	8月定例会・協議会
	31日	9月定例会・協議会
	10月	遊休農地解消シンポジウム
	11月	9月定例会・協議会
	18日	農業振興対策部会・農地対策部会
	26日	情報委員会

家族経営協定を結んで
家族円満！

今年も、3月3日の雛祭りの日に、家族経営協定調印式が小布施町公民館において、和やかな雰囲気の中で行われました。

今年、協定を結ばれた12組

（須坂3組、小布施7組、高山2組）の皆さんのお話では、後継者の結婚を機会に、親子で協定を結んだ方、認定農業者になり張り合いを持って農業に従事したいと張り切る20

代の若者、農業は後継者に譲り、今後の介護について協定された70代夫婦など、協定内容は様々でしたが、家族が円満に農業を営んでいることが伝わってきました。

今後、農業委員会では家族経営協定の推進を支援してまいります。

須高地区農業委員会協議会開催

須高地区農業委員会
協議会（内山幸一会長）
では2月27日高山村公
民館において総会と研
修会を開催しました。

須坂市、小布施町、高山村農業委員が集まり、平成19年度事業と決算の承認、平成20年度事業計画等について協議しました。

内山会長は「農業施策における国、県、地域での取り組み」に触れ、続いて、高山村副村長から「農業委員活動に期待する。須高連携が大切」との祝辞を

ただきました。

総会後、研修会を行い、講師に東京農工大学非常勤講師の小池洋男氏の講演を行いました。演題は「地球の温暖化・グローバル化を生き残るために ブドウ・リンゴ・新品種・技術革新への挑戦が道を開く」というもので、豊富な海外生産地情勢視察経験をもとにした写真などにより、果樹の栽培方法を紹介しました。体験発表では、高山村農業委員3名から、「農地現況調査、ワインブドウ栽培、大豆栽培で豆腐づくり」など、遊休荒廃農地解消への取り組みについて報告がありました。



和やかな調印式

農業者の皆さん
老後の備えは万全ですか？

農業者年金加入のすすめ

老後も生き生きとお金の心配をしないで暮らしたいものです。皆さんが加入している国民年金の支給額は、40年加入で1人月額約6万6千円です。

このように国民年金だけでは十分といえず、老後の生活費は自分で準備する

必要があります。サラリーマンは国民年金の上乗せ年金として厚生年金等に加えています。

農業者の皆さんも、メリツトがたくさんある農業者年金に加入してサラリーマン並みの年金を受け取りましょう。

加入資格 60歳未満の国民年金第1号被保険者で、年間60日以上農業に従事している方

● 少子高齢化時代に強い積立方式の年金です。

● 終身年金で80歳までの保証付きです。

●保険料は全額社会保険料控除ができます。

● 手厚い政策支援、
保険料の国庫補
助もあります。

老後の備
農業

老後の備えは、
農業者年金で安心！

9月16日	都市計画審議会 の懇談会
8月18日	農地対策部会 情報委員会
7月21・22日	姉妹都市農産物対面 販売（新発田市）
7月27・28日	姉妹都市農産物対面 販売（三浦市）
11月31日	10月定例総会・協議会 農業後継者対策会議
11月1・22日	農地パトロール実施 期間
12月17日	市民農業大学校収穫祭 須高地区農業委員会協議 会視察研修
12月20日	情報委員会、滝地区陸 砂利調整会議
12月30・28日	農林水産大臣との懇談会 農業振興地域整備促進協 議会、11月定例総会・協 議会
12月2日	県選出国會議員との地区 別農政懇談会
12月3日	須高地区農業委員会協議 会役員会
12月18日	農業後継者対策部会 12月定例総会・協議会
12月27・15日	県農業者年金推進協議会 理事会
12月22日	長野地域農業青年プロジ ェクト意見発表大会
2月31日	1月定例総会・協議会 明日の長野県農業を担う 若人のつどい
2月7日	農業後継者結婚相談推進 大会
2月21・27日	県女性農業委員の会研修会 1月定例総会・協議会 須高地区農業委員会協議 会総会
3月3・7日	家族経営協定調印式 農業者年金相談会 後継者対策部会
3月11日	情報委員会、農業振興対 策部会
3月13・14日	農地対策部会 情報委員会
3月15・18日	市民農業大 학교閉校式 標準労賃策定協議会
3月27・28日	県農業会議第103回定期総 会、情報委員会
3月28日	農振除外事前審議、3月 定例総会・協議会

● 生き生き農家 ●

幹から枝が張るように

仁礼町 田 邊 恵 徳



私は花卉栽培農家でもあり、花卉類販売業者でもあり、花屋に関することすべてといえそうです。

2年前に就農、この二文字もまた悩むところですが、この仕事に就いたばかりの新規就農職者です。ここでは、私が行っている仕事を紹介していこうと思います。

花農家の仕事ですが、各種花壇苗やシクラメンの生産のほか、特殊な鉢花の栽培を行っています。

職員の人事異動

4月1日付の人事異動で、産業振興部農林課、農業委員会事務局の職員に次のとおり異動がありました。

() は前任の職名、職場

退職

阪牧 吉次 (産業振興部長)

転出

人権同和政策課長兼人権同和教育課長
羽生田順一 (農業委員会事務局長)

農林課森林・鳥獣害対策推進役兼耕地・林務係長

竹前 晴夫 (農林課長補佐兼農業委員会事務局)

学校教育課

小林 貴彦 (農林課)

生涯学習課兼博物館

岡田千津子 (農林課)

転入

産業振興部長兼農業委員会事務局長

丸田 孝雄 (生涯学習課長兼センター所長)

農林課長

伊藤 公穂 (まちづくり課長)

農業委員会事務局次長

奥原 利広 (道路河川課長補佐兼農林道係長)

農林課長補佐兼農政係長兼農業委員会事務局

勝山 修吉 (農林課耕地・林務係長)

農林課

富沢 文洋 (上下水道課)

全国農業新聞を

読みましょう

農業をとりまく情勢を広く提供しています。

購読希望者は農業委員または農業委員会事務局へ

購読料 月600円
発行 毎週金曜日

編集後記

3年間の活動を通じて現場で寄せられた声、実感した切実な願いを「建議書」として行政に実施を要請しました。

農業委員の活動に各地区でのご協力やご参加をいただいた方々、また、自然に左右され、価格低迷の中で懸命に頑張っている農家の皆様に敬意の念でいっぱいであります。

本号も農業委員の手づくりです。未熟ではありますが任期最後の「農業委員会だより」となりました。 竹内 昇記

情報委員会 (編集委員)

委員長 山岸 英夫
副委員長 宮川 勉
委員 小林 直久
中島 俊孝
市村 憲章
竹内 昇

励まし合い、研修し合って

湧く希望

村石地区種なしブドウ研究会

村石地区で、巨峰の種なし栽培を進めるグループが、技術の研修や、お互いの経験を持ち寄って作業に取り組んでいます。

5年程前、4〜5人のグループが10人前後になり、高齢が進む中、省力化、高品質化に向けてお互いに励まし合

りリーダー格の小林 信さんは「ひとりでは不安な作業も仲間がいれば安心、作業の節目ごとに出来れば話し合う機会を持ちたい。そして更に改良が図れば……」と願いを込めていました。

地域農業発展の新しい一面に期待されています。



講師は元果樹試験場長の小林さん